



文系・理系、国立・私立、自宅・下宿…

いつ、何に、いくら 進学費用がかかる？



「進学について真剣に考え始めるのは、高3になってから…」
 そう思っていたら、間際になって慌てることも少なくありません。
 保護者が高校生の頃と現在では、卒業後の進学率や学校・学部を選択肢、
 進学にかかる費用にも大きな違いがあるからです。子どもの希望を
 叶えるためにも、保護者は進学費用についての理解を深め、
 どのように準備するかを早めに検討していきましょう。

構成・取材・文／インタープレス(光田洋子、三浦美紀) イラスト／もとき理川

		現在	約25年前
		子ども世代 2017年度 (平成29年度)	親世代 1993年頃 (平成5年頃)
学校納付金 ※1	国立大学	81万7800円	64万1600円
	公立大学	93万2519円	73万5307円
	私立大学	113万1196円 ※2	96万3870円
進学率(大学のみの進学率) ※3		80.6% (52.6%)	59.6% (28.0%)
奨学金の受給率 ※4		51.3%	21.4%
大学の学部数 ※5	昼間部	2462	1253
	夜間部	68	151
	合計	2530	1404

学費の
負担が
UP

進学率は
上昇

学部数も
増加



くわしくは次ページへ
 上のような違いを理解して
 家庭で必要な準備の仕方考えましょう

※1 文部科学省調査の初年度の入学料と授業料の平均額の合計(施設設備費、実験実習費、その他の費用は除く)
 ※2 文部科学省の2016年度(平成28年度)入学者の数字
 ※3 文部科学省の平成29年度学校基本調査で、大学・短大、専門学校の進学率で、現役生のほかに浪人生なども含む
 ※4 日本学生支援機構「学生生活調査」の大学昼間部の平均で、親世代は1994年度(平成6年度)、子ども世代は2014年度(平成26年度)のもの
 ※5 文部科学省「学校基本調査」より

現状と今後の進学情報をチェックし
高1のときから進学費用の備えを始めた



進学の状況は昔と異なる
早いうちから
親の意識改革が必要

40代の保護者が高校を卒業した25年くらい前と今では、高校生の進学事情は大きく異なります。前ページで紹介したように、進学率は8割を超え、大学等に納めるお金も大幅に値上がりしています。国公立大学の学費は平均25%以上アップし、私立大学との差が縮まっています。一方、私立大学も学費以外に納めるお金が多くなり、専

門学校の費用も学校や専攻によっては数倍の開きがあります。

大学・専門学校の数も昔より増え、学部や専攻も細かく多様化

しているため、子どもの志向や就職を考えて保護者が気軽に助言

できる時代ではありません。第一

子などが初めて進学するご家庭では、進学先選びにも親子で迷うこ

とが多くなるかもしれません。

まず保護者は自分の経験が必ずしも通用しないことを知り、今の高校生が置かれた状況や環境をきちんと把握することが重要です。

進学資金の準備には
幅広く情報を集め

家庭で話し合うことが大事

左の調査では、進路や進学先について自分の希望が固まったのは高

3のときだったという学生が多く、進学費用についても保護者と話し

た人は半数以下ということがわかりました。しかし、子どもの希望

が固まってから進学費用を調べ、準備するのでは間に合わないことも

でなく、高校在学中の教育費や受

直近の情報をもとに
教育資金の準備方法を
具体的に考えていこう

大学の入試方法の見直しや、奨学金の種類や条件が変わるなど、この数年は高等教育に関わる制度も過渡期を迎えています。それに伴い、進学に必要な費用なども変わってくるかもしれません。

ファイナンシャル・プランナーが高校などで奨学金の説明を行い、進学費用の相談に応じる「スカラシップ・アドバイザー制度」も始まりました。高校やPTAなどの要請に応じ、日本学生支援機構がアドバイザーを派遣してくれます。こうした機会も活用し、最新の正しい情報をもとに具体的な準備を始めることが大切。正しい知識と情報があれば、費用の不安を軽くする解決策もみつかります。

Q 高校入学後、具体的な進路、進学先についてあなた自身の希望が固まったのは、いつ頃でしたか？



※「前期」の回答は「1学期・夏休みまで」に、「後期」の回答は「3学期」として集計した。

Q 高校卒業後の進学費用について、保護者から何か言われたり、話し合ったりしましたか？

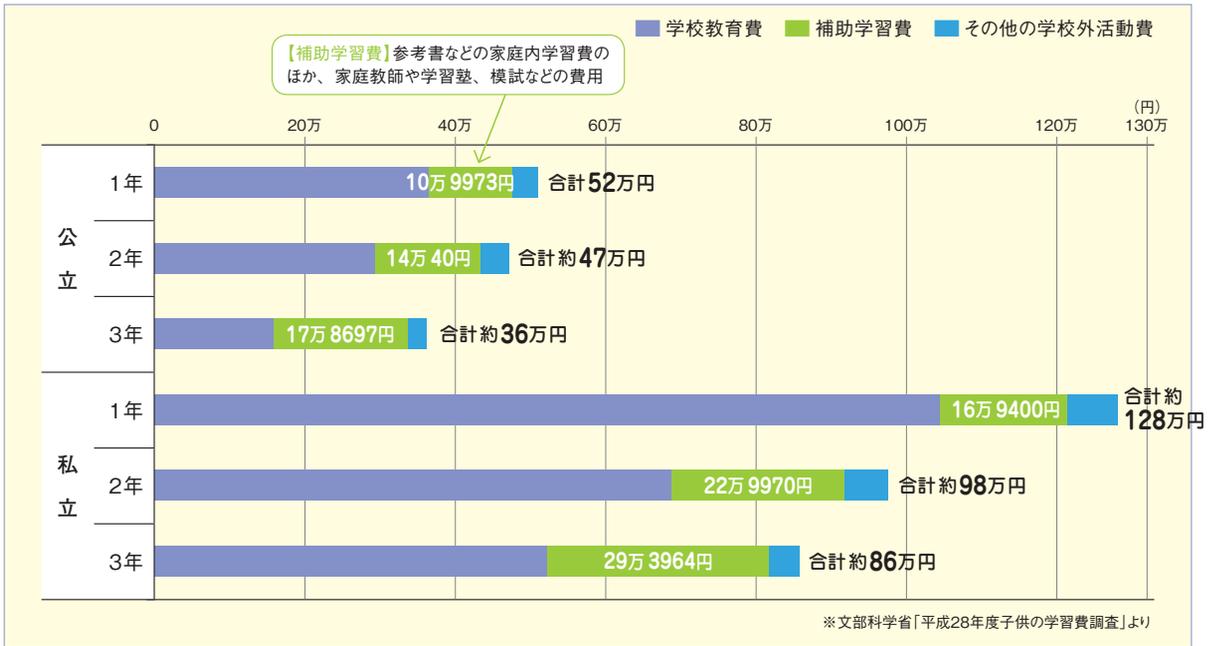


例えば…

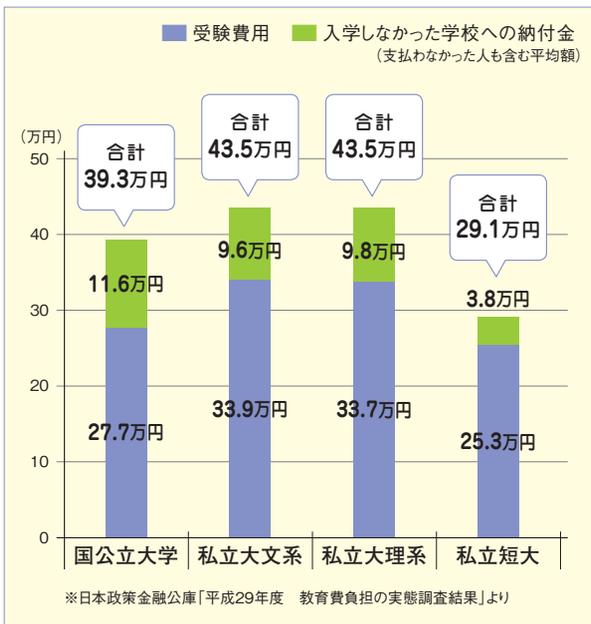
- 大学と専門学校の学費の違い(を確認して話し合った)
- (親が)自分の頃と比べて学費が高いと言った
- 私立大学は経済的に無理だと言われた
- 学費が安いから国公立大学にしてほしいと言われた
- 私立大学なら自宅から通える範囲にしてほしいと言われた
- 奨学金を借りるか借りないかの話をした

※※上2つのアンケートは、本誌編集部が大学生・専門学校生・浪人生にwebでアンケートを実施(有効回答者数310名)。実施期間:2017年12月20日~22日(調査協力:マクロミル)。

●高校1～3年にかかる教育費



●進学先別 受験にかかる平均費用



上の調査の受験費用には、受験した学校すべての検定料のほか、受験のための交通費・宿泊費も含まれる。センター試験を受ける場合、申し込み時のほか、受験する大学ごとの検定料が必要。国公立大学の希望者は私立併願で受験する人が大半で、私立大学の一般入試はネット出願や複数学部への同時出願で検定料が割引になることも多い。ただし、結果的に複数校・学部で受験で費用は高めになる。

計の見直しや準備が必要です。

大学の英語検定が必須になるから、民間の英語検定が必要になる大学が増えるため、その受験費用も負担に。進学までにはこうした費用が生じることを覚悟して、家計の見直しや準備が必要です。

参考

●模試費用の一例 1回あたり

模試受験料	4700円～5300円
リスニング機器のレンタル料	1100円
答案等の返却料	500円

●大学入学共通テストの英語で導入が検討されている民間検定試験の一例

英検 (実用英語技能検定)	1級	8400円
	準1級	6900円
	2級	5800円(準会場5400円)
TOEIC® Listening & Reading Test		5725円
TOEIC® Speaking & Writing Tests		1万2600円

●検定料の例

検定料			
推薦・AO入試	国立大学	1万7000円程度	
	私立大学	3万5000円程度	
大学センター試験 (申し込み時)	3教科以上	1万8000円	
	2教科以下	1万2000円	
国立大学	一般入試	1万7000円程度	
	私立大学	センター利用入試	1万～2万5000円程度
		一般入試	3万5000円程度

私立大学を一般入試などで受験する場合
 センター試験(3教科以上)の申し込みと、
 私大のセンター利用入試 1万8000円 × 3回
 一般入試 3万5000円 × 5回で
 合計 24万7000円 + 交通費・宿泊費など
 ※出願方法によっては、検定料が割引になることもある

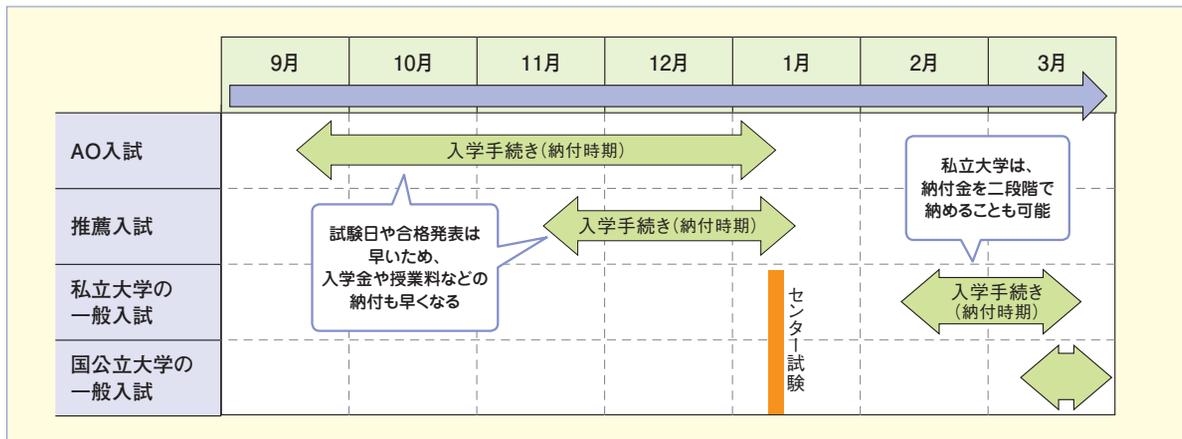
進学までには補助学習費や模試、受験費用も必要に

高校の授業料は、高等学校等

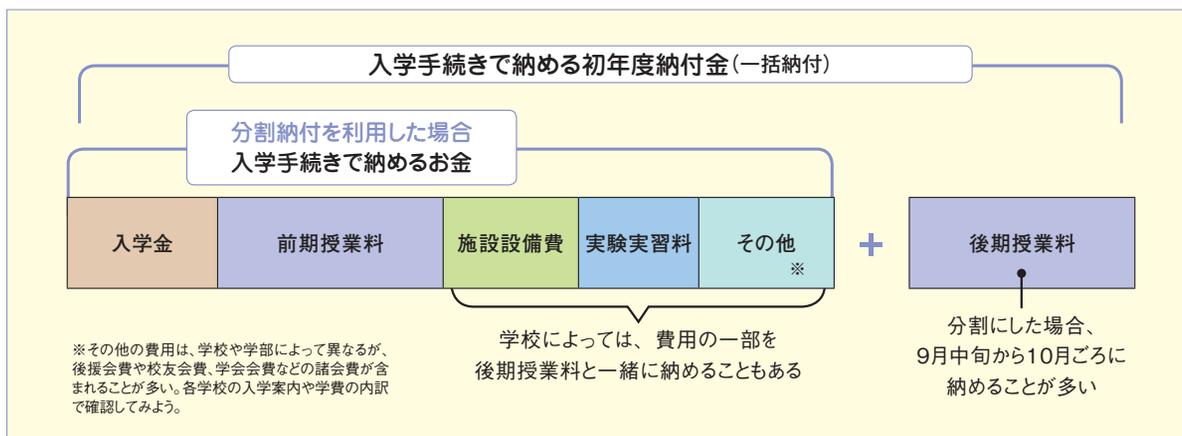
就学支援金で負担は若干軽減しています。しかし、家庭での補助学習費や部活などにかかる活動費を合わせれば、高校時代にかかる教育費はけっこうあります。

特に、上図のとおり、塾代などの補助学習費は学年が進むほど出費が増えるのが一般的。高3になると全国規模の模試を複数回受け、夏期講習などを受講する生徒も多くあります。学校見学でオープンキャンパスに参加したり、受験用の教材を購入したりと出費は増大。入試の選抜方法が増えたことから、受験費用もここ数年は高水準。推薦やAO入試であれば最小限ですみますが、一般入試の場合はセンター試験のほか、学校ごとの検定料がかかります。複数の方法で出願する人が多く、平均で30万円以上、滑り止め校の入学料を合わせると40万円以上になることも少なくありません(上の左図参照)。

●初年度納付金を納める時期



●初年度納付金の内訳



国公立か私立か、学部でも学校に納めるお金は大違い

進学する大学や学部、学校によって、どれくらい費用がかかるのか、いつごろ支払うのかをあらかじめ知っておくことは重要です。子どもの希望が決まっていなくても、だいたいの目安がわかれば、早めに準備を始めることができるからです。

まずは左ページの図で、大学の種類や学部ごと、専門学校の系統別の平均額を見てみましょう。

いずれも年間にかかる費用で、初年度は入学料を含めた金額です。国公立大学の場合、文系・理系などの学部による違いはなく、年間にかかる費用はほぼ同程度です。

しかし、私立大学では学部系統による違いが大きく、最も負担が少ない文系でも年間100万円。初年度は入学料を含めて124万円、4年間の合計は424万円です。理系、芸術系はもっと高く、4年間で600万円前後。薬学系や医・歯系学部は年間費用も高く、修学期間は6年間になります。

一方、短大の年間費用は私立文



初年度に納めるお金は高3の秋までに準備

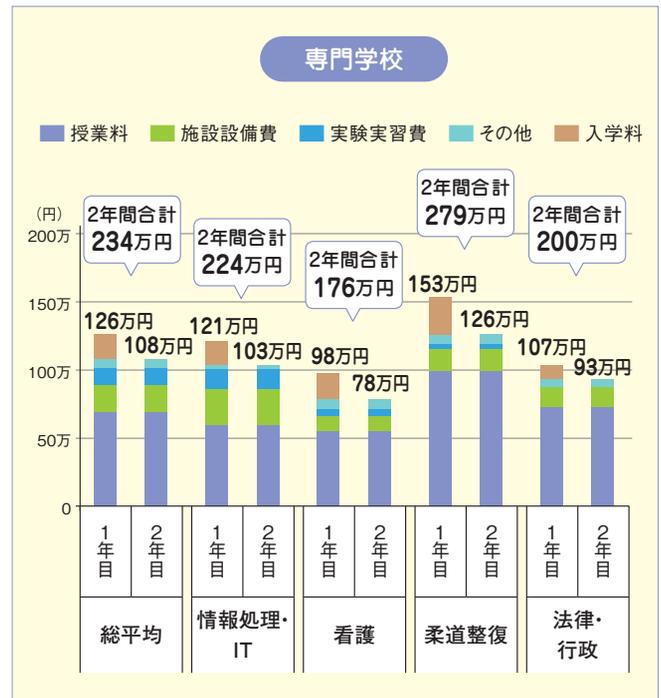
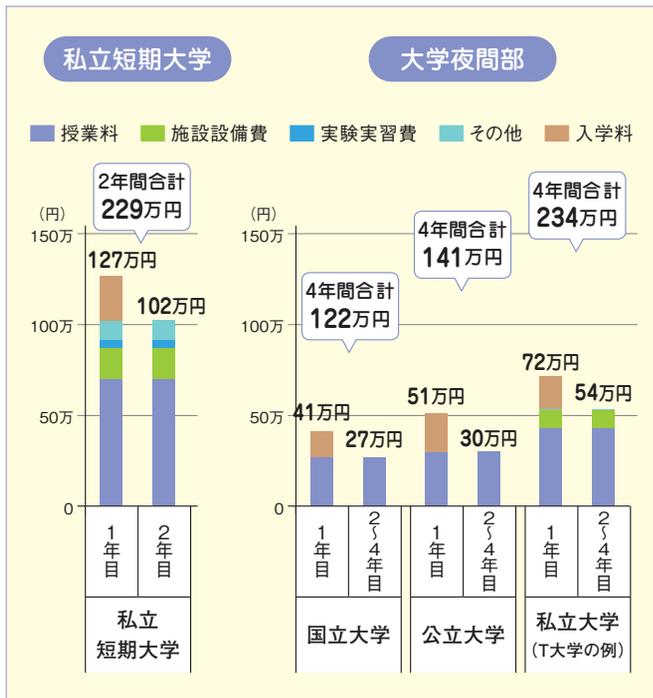
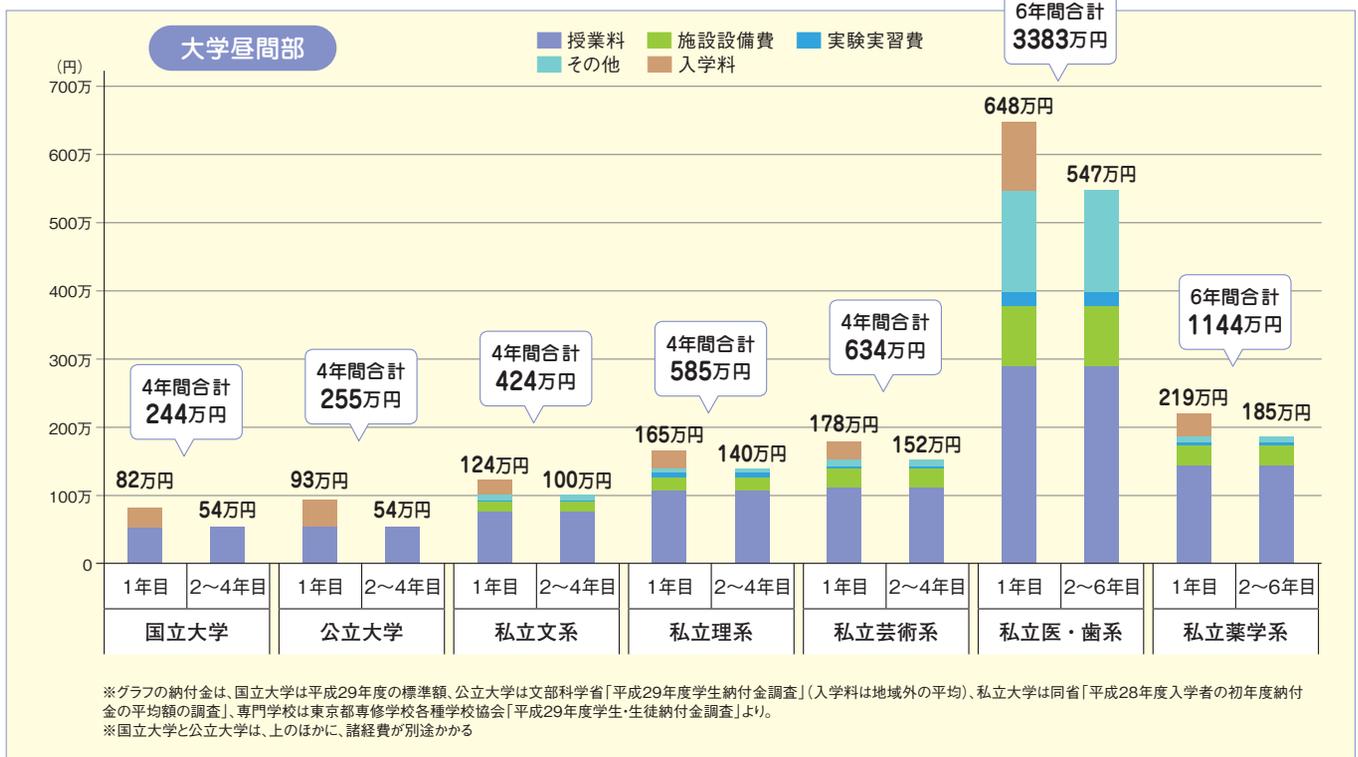
系と同程度ですが、2年間のため合計の負担は軽め。4年制でも夜間部の場合は昼間部の半額程度。私立大学の二部・夜間部は減少していますが、昼夜開講のフレックス制を採用する大学は増えています。

専門学校は平均額は全体では私立文系と同じくらいですが、学校や専攻コースで負担は異なります。修学期間も1〜4年とさまざまあるため、調べておくといいたいでしょう。

在学中の合計額で見ると負担は重くなりますが、各年の納付金は年度初めに納めることになり、ただし、初年度納付金だけは合格発表後、1〜2週間のあいだの決められた期限までに、入学手続きを行う際に納めるのがポイントです。

入学手続きの期限は入試方法に

●進学先別の学校納付金の平均(年間費用)



進学の道を開くことはできるので、次のページを見てください。

夜間部や二部を検討したり、奨学金を利用する方法もあります。

進学の道を開くことはできるので、次のページを見てください。

私立大学は二段階納付を利用できることも

よって異なり、最も早いのはAO入試で、早い学校では高3の9月下旬に手続きが必要なものも。推薦入試も11月には合格が決まり、年内に納めるケースが多いようです。

一般入試の場合、受験日が早いと合格発表や手続き期限も早く、私立は2月下旬から3月半ば。国公立は3月半ばから下旬です。

初年度納付金には入学金と授業料のほか、私大や専門学校は右図のような費用も含まれます。このうち授業料は後期の分を後で納めることも可能ですが、それ以外は入学手続きまでに、できれば高3の秋までに準備しておくのが安心です。



必要な進学費用を調べて
用意できる金額をチェック

大学等へ進むための教育資金は、

こども保険や学資保険のほか、積立貯蓄などで準備している家庭が多いようです。しかし、高校入学時や在学中などに取崩してしまったり、予想外の出費などに使ってしまったらして、計画通りに準備できない場合もあります。

まずは今後、進学費用として必要になりそうな金額を前のページで確認し、今現在、準備できている資金はどれくらいあるかをチェックしてみましょう。

準備した保険や貯蓄で足りそうなら、そのお金は進学先が決まるまで手をつけず、しっかり確保しておくことが大切。高校時代に必要な教育費は、家計から出すか、他の貯蓄から充てましょう。

一方、準備できているお金だけでは足りそうない場合、不足分はどれくらいかを調べ、これから貯められる金額を検討してください。

子どもが高校1年か2年生なら、実際に初年度納付金や毎年の学

費を納める時期まで、結構時間があります。毎月の積立やボーナスから一定額ずつ貯蓄していけば、不足分を補うこともできます。

高校3年生の場合は、これから貯められる時間が少ないため、入学手続き時に必要な初年度納付金だけは手元の貯蓄から取り分けておき、2年目以降に必要な分を少しずつ貯めることを考えましょう。

準備できない進学費用は
奨学金で補うことも可能

これから準備しても進学費用にはとても足りない、家計から出すのも難しいという場合でも、進学をあきらめる必要はありません。奨学金という制度があります。

大学等の在学中に必要なお金の半分くらいは準備できるけれど、全部は難しいという場合も、足りない分だけ奨学金で賄うようにすれば、家計からの負担はぐんと軽くなります。子どもにも話し、利用可能な奨学金を調べてみましょう。

実際に、今は大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しています。そのうち大半の人は日本学

●進学資金をつくる時の考え方

STEP

1 日々の家計や貯蓄から準備

大学等への進学にはまとまった資金が必要なため、幼少時から積立貯蓄やこども保険などで準備している家庭がほとんど。そうした資金をベースにして、足りない分は毎月の家計やボーナスから取り分けて、進学資金に充てる。まとまった貯蓄がない場合、

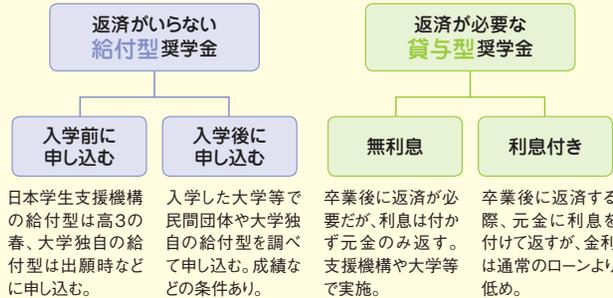
家計の見直しなどで、これから貯められる金額を検討しよう。入学手続きまでに、最低でも100万円程度の初年度納付金を準備できれば、進学の見目は立てられる。在学中の費用などは家計から出さずか、奨学金を利用する手も。

STEP

2 足りない分は奨学金を検討

2年目以降の学費や、自宅外通学での生活費など、準備した貯蓄や家計からの捻出では足りない場合、奨学金を検討しよう。奨学金にもさまざまなタイプがあり、給付型を利用できれば学費の負担は軽減し、本人の返済負担もない。給付型の受給が難しい場合は貸与型を申し込む。貸与型でも卒業後の返済は教育ローンより負担が軽いことが多い。

●奨学金は大きく分けて2つある



STEP

3 それでも不足するなら
教育ローン

在学中に家計が厳しくなったり、初年度納付金が足りないときなどは、教育ローンを利用する手もある。奨学金は子どもが利用し、貸与型も子どもが返すが、教育ローンは収入のある親が借りて親が返すことや、借りの翌月から利息が発生する点に注意が必要(在学中は元金の据置きは可能)。審査から振り込みまで多少の時間がかかるので、必要な時期を考えて早めに申し込む(P62を参照)。



奨学金

●日本学生支援機構の奨学金の概要（平成30年度の大学生の場合）

給付型奨学金	申し込み先	高校等を通して申し込む。校長の推薦が必要		
	申し込み条件	大学等に進学を予定している人で優れた資質・能力を有し、以下のいずれかに該当する人 ・住民税非課税世帯や生活保護受給世帯の人 ・社会的養護を必要とする人(18歳時点で児童養護施設に入所していた人など)		
	給付月額	【国公立】 自宅通学 2万円 自宅外通学 3万円	【私立】 自宅通学 3万円 自宅外通学 4万円	※社会的養護を必要とする人は、左記とは別に一時金として入学時に24万円が給付される

2018年度の入学者から本格的に導入される給付型は、高校3年の春に申し込む予約採用で候補者が決まる。在学中の高校を通して申し込むが、左記のような条件があり、高校ごとの選考基準を満たし、学校長の推薦も必要。採用数は若干名で給付月額も限られるため、給付型希望者は貸与型も申し込んでおく心安だ。

(予約採用・平成30年度大学の入学者)

貸与型奨学金	第一種奨学金(無利息)		第二種奨学金(利息付き)		入学時特別増額貸与奨学金(利息付き)	
	学力基準	1)申し込み時までの評定平均値が3.5以上または、 2)次の両方に該当する人 ・家計支持者が住民税非課税または生活保護受給している、もしくは社会的養護を必要とする人 ・特定分野で優れた能力を有したり、学習意欲があり、大学で優れた学習成績を修める見込みがある		次のいずれかに該当する人 1)申し込み時までの学習成績が学年の平均水準以上 2)特定分野で特に優れた能力を有すると認められる 3)学習意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがある		申し込み条件
家計基準(4人家族の目安)	給与所得者：年収747万円以下 それ以外：年間所得349万円以下		給与所得者：年収1100万円以下 それ以外：年間所得692万円以下			
貸与月額	【国公立】 自宅通学 2万円、3万円、4万5000円 自宅外通学 2万円、3万円、4万円、5万1000円 【私立】 自宅通学 2万円、3万円、4万円、5万4000円 自宅外通学 2万円、3万円、4万円、5万円、6万4000円 (※最高月額、家計支持者の収入が一定額以上の場合、利用できない)		3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 ※12万円を選択した場合、進学時に薬学・獣医学は2万円の増額、医学・歯学は4万円の増額が可能		貸与金額(一時金)	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円

申し込み方法

予約採用

高校3年の春に、高校を通して申し込む方法。進学先が決まっていなくても申し込める

在学採用

大学や専門学校等に入学してから、その学校を通して原則として春に申し込む方法

保証制度……どちらか選択して申し込む

人的保証

- 一定の条件を満たした連帯保証人と保証人が保証する制度で、保証料は不要(連帯保証人を親、保証人を親戚にするケースが多い)
- 奨学金の返済を滞納した場合、連帯保証人や保証人が本人に代わって返済する義務がある

機関保証

- 保証機関が連帯保証するので、一定の保証料がかかる。この分は毎月の奨学金から差し引かれる
- 一定期間以上滞納した場合、保証機関が返済してくれるが、その後保証機関より本人に請求がくる
- 一度、機関保証を選ぶと、人的保証に変更できない

●その他の奨学金

<h3>大学独自の奨学金</h3> <p>成績優秀者や経済的支援が必要な学生に対して実施。授業料相当額やその一部を給付するタイプなど、内容はさまざま。入学後に申請する奨学金のほかに、入学前に採用が決まる「入学前予約採用型給付奨学金」もある</p>	<h3>自治体の奨学金</h3> <p>都道府県や市区町村ごとに、その自治体に居住する保護者や学生に対して実施。条件や支給額、支援機構の奨学金との併用の可否はそれぞれ異なる</p>	<h3>民間団体の奨学金</h3> <p>将来、社会や地域に貢献する人材の育成や、経済的支援を目的に実施。学校や学部を指定するタイプもある。種類は多いが、採用人数はそれぞれ若干名</p>
---	--	---

生支援機構の奨学金ですが、大学独自の奨学金の種類も増え、民間団体や自治体の奨学金も多数あります。いろいろ調べて、有利なものから申し込んでいかげしょう。大学独自の奨学金には、出願時に申し込み、入学前に採否がわかる予約採用の給付型奨学金もあります。給付型の金額は、学費の一部や半分、全額などと学校や制度によって異なりますが、入学前に受給可能とわかれば、安心して進学することができます。入学後、学業成績などに応じて支給する給付型もあるので、各大学のホームページなどは必ずチェックして。

日本学生支援機構の奨学金は、高校3年の春に在学中の学校を通して募集する「予約採用」で申し込み人が大半です。同機構では給付型奨学金も導入されましたが、低所得世帯などに限られるため、大半の人は貸与型になります。子どもに任せきりではなく、親子で条件などを確認し、申し込む種類や貸与額などを検討しましょう。貸与月額は学費などの不足する分だけにすることがポイントです。

それでも足りない場合は、教育ローンを利用するのが現実的。利率の低い「国の教育ローン」から検討し、借入額は無理なく返せる金額に抑えましょう。

教育ローン

●日本政策金融公庫「国の教育ローン」

利用例	融資額						
<p>入学時にお金が足りない</p> <p>入学前に申し込み、入学金などの学校納付金、住まいの敷金・家賃などに充てることも可能</p>	<p>子ども1人につき350万円 (条件にあう海外留学費用は450万円まで)</p>						
<p>在学中に学費が不足…</p> <p>在学途中、いつでも申し込み、授業料、教材費などを補える</p>	<p>固定1.76%。ひとり親家庭、世帯年収200万円(所得122万円)以内、子ども3人以上で世帯年収500万円(346万円)以内は1.36%(2018年2月8日現在)</p>						
<p>海外留学がしたい</p> <p>6か月以上の海外留学のための資金として利用できる</p>	<p>返済期間 15年以内(上記の家庭と交通遺児家庭は18年以内)。 在学中は元金据え置きも可能</p>						
	<p>主な借り入れ条件</p> <p>世帯の年間収入(年間所得)が下の金額以内であること</p> <table border="1"> <tr> <td>子ども1人</td> <td>790万円(590万円)</td> </tr> <tr> <td>子ども2人</td> <td>890万円(680万円)</td> </tr> <tr> <td>子ども3人</td> <td>990万円(770万円)</td> </tr> </table> <p>主に生計を維持している保護者が、以下の要件のうち一つでも該当すれば、990万円(770万円)までなら申し込み可能</p> <ol style="list-style-type: none"> 勤続(営業)年数3年未満 居住年数が1年未満 世帯のいずれかの人が自宅外通学(予定)者 借入申込人または配偶者が単身赴任 海外留学資金として使う 借入金の返済負担率が年収の30%超 親族に要介護(要支援)認定を受けている人がいて、介護費用を負担している 大規模な災害により被災した人 	子ども1人	790万円(590万円)	子ども2人	890万円(680万円)	子ども3人	990万円(770万円)
子ども1人	790万円(590万円)						
子ども2人	890万円(680万円)						
子ども3人	990万円(770万円)						
	<p>その他 保証基金を利用する場合、融資額から一括で差し引かれる</p>						

●その他の教育ローン

	融資額	主な使いみち	金利(年)	返済期間
ろうきん (中央ろうきん・証書貸付型の場合)	最高 2000万円	<ul style="list-style-type: none"> 学校納付金、受験料 下宿の敷金・礼金 6か月以上滞在の留学費用 予備校費用 奨学金の借り換え(団体会員のみ) 	<p>固定金利 10年以内2.4~3.4%、 10年超2.9~3.9%</p> <p>変動金利 2.2~2.4%(会員のみ) ※勤務先が団体会員になっている人や、 生協会員の人は低い金利を適用</p>	15年まで
銀行の教育ローン	最高 300万円~ 500万円	<ul style="list-style-type: none"> 学校納付金 銀行によっては、他行の教育ローンの借り換えも可能 	<p>変動金利 2~4%台が一般的</p>	10年以内が一般的
学校提携の信販会社の教育ローン	最高 500万円程度 が一般的	<ul style="list-style-type: none"> 学校納付金(入学金、授業料など) ※信販会社が直接支払ってくれる 	<p>固定金利で、金利は信販会社や学校によって異なるが2~4%台が多い</p>	10年以内が一般的

※金利は2018年2月8日現在

夜間コースのことを知って 諦めていた私大進学が可能に!

高2で外国人と交流する機会があり、東京の大学で得意の英語を伸ばせる学部を希望していました。経済的に私大は厳しかったのですが、担任が夜に通うコースもあることを教えてくれました。学費は昼間部の半分近くで自己推薦入試だったため、そこを第一志望にして10月中旬に受験。合格がわかったときは、



東洋大学
国際学部国際地域学科
イブニングコース1年
M・Sさん(福島県出身)

親と一緒に抱き合って喜びました。負担が軽くなったため、初年度納付金や学費のほか、仕送りが月4万5000円ももらっています。これに日本学生支援機構の奨学金の月5万円と、平日昼間のアルバイトの数万円ですべて暮らしては十分可能。外国人の友人もでき、今は充実した学生生活を送っています。

子ども自身が選択肢を広げ、道を拓く方法もある!

「できれば地元の国公立に」と考えていても、子どもは仕送りが必要な遠方の大学や私大を希望するなどで、資金繰りに悩むこともよくあります。しかし、左の例のように思わぬ情報から進学先の選択肢を広げ、希望を叶えた学生もいます。学校や周囲の人に相談してみるのも方法です。

あとで
慌てない
ために

入学前後や学生生活にかかるお金と考え方



●自宅生でもかかるお金の例

- 教科書代や参考書代
- 入学式に着用するスーツ&靴代
- パソコン購入費用
- 通学定期代
- 資格取得などの特別講座、スクール代
など

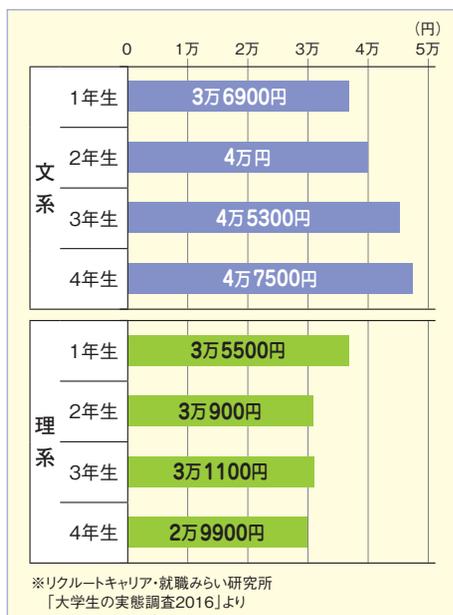
●入学時にかかる住まいの準備費用

家賃	6万2000円	合計 57万2300円
敷金・礼金	19万7800円	
生活用品費	31万2500円	

※東京私大教連「2016年度私立大学新入生の家計負担調査」より

●ひとり暮らしの学生の1カ月の生活費(地域別)

●大学生の1カ月のアルバイト収入



進学先が決まったら 入学準備のお金も用意

入学手続きでまとまったお金を納めた後も、4月の入学までには何かとお金がかかります。自宅外通学になる場合は住まいを探し、ひとり暮らしなら敷金・礼金、学生寮でも保証料などの諸経費を納めなければなりません。住まいの準備には50万〜60万がかかります。自宅生も含めて、入学式の前にはスーツや靴を揃え、パソコンを購入する人も多く、通学定期代や教材費などの出費が続きます。

さらに、自宅外の場合は毎月の仕送りも考えなければなりません。学生の生活費は上図のように10万〜13万円台ですが、仕送り額の平均は7万円前後。足りない分は奨学金やアルバイトでカバーしている学生が大半です。とはいえ、奨学金を受け取れるのは5月以降で、学生生活に慣れるまではアルバイト収入も多くは期待できません。1年目の夏までは家庭からの仕送りが多めに必要になりそうです。

大学生のアルバイト収入は月3万〜4万円程度の方が多く、実験・実習などが多い理系の学生は文系より少なめ。こうした状況も理解して、進学費用をどう準備するか、家庭で話し合っておきましょう。